

研究課題名 (研究番号)	肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療(SBRT)の多施設共同 前向き観察研究 (2018040)
当院の研究責任者 (所属)	綾川 志保 (中京病院 放射線科)
本研究の目的	<p>T1-2N0M0の早期非小細胞肺癌において、手術不能あるいは手術拒否の患者には根治的放射線治療の適応があり、放射線治療の方法としては体幹部定位放射線治療(SBRT:Stereotactic body radiotherapy)が推奨されています。また、転移性肺癌に対しても、肺転移が3個以内であれば、保険診療としてSBRTが認められています。</p> <p>日本国内では腫瘍の中心部で放射線量を規定し、腫瘍辺縁の線量は低下する放射線治療計画(中心処方)を行う施設が多いのですが、国際的には腫瘍の辺縁部で線量を規定し、腫瘍の中心部では辺縁部の1.25倍から1.5倍の線量を投与する放射線治療計画(辺縁処方)が一般的です。つまり日本の定位放射線治療は海外における治療よりも、照射される線量が低いことが多いのです。</p> <p>このような状況を考慮して、名古屋市立大学病院放射線科およびその関連病院では日常診療におけるプロトコルを国際標準に変更し、同時に放射線治療計画の施設間の差を最小化する品質管理を導入し、多施設共同の前向き観察研究を実施することにしました。</p> <p>国際標準の治療計画による放射線治療の効果と安全性は国際的には既にある程度確立されていますが、このような多施設による大規模な前向き観察研究の報告は国内からはなく、信頼できる質の高い研究による治療成績と安全性を報告することは、臨床的に極めて意義深いと考えています。</p>
調査データ該当期間	2019年-2023年
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さま 上記期間内に、肺がんの定位放射線治療を施行された方</p> <p>●利用する情報 背景情報、病理検査や画像検査結果、放射線治療内容、治療後経過</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	情報と資料は当院の研究担当者が収集し、情報を匿名化処理した上で名古屋市立大学放射線医学教室内で厳重に保管します。
個人情報の取り扱い	学術雑誌や学会で発表されることがありますが、医療情報は匿名化した番号で管理されるため、得られた情報から個人が特定されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連した利益相反事項はありません。
お問い合わせ先	電話:052-691-7151 担当者:放射線科 綾川 志保
備考	